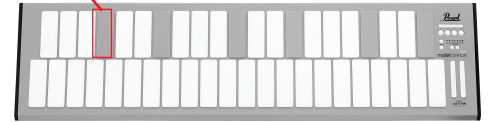
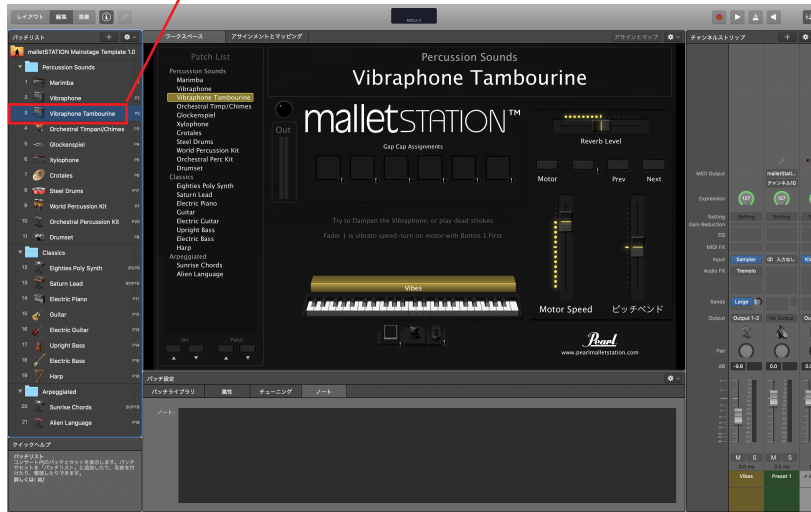


# Vibraphone (例) のギャップキャップにハンドパーカッション等のソフトウェア音源を割り当てる方法



※ 今回は MainStage3 パッチから「タンバリン」を割り当てます。

「Vibraphone」を別名で保存。 ※例「Vibraphone Tambourine」



「レイアウト」をクリックすると以下のウィンドウに切り替わり、キーボードアイコンをクリックすると左上に（スクリーンコントロールインスペクタ）が表示されます。（次の画像）



MIDI ポートに「malletSTATION」、チャンネルは「チャンネル1」と表示されていることを確認。



次に、ギャップキャップに割り当てるソフトウェア音源用の箱(入れもの)を作ります。

スクリーン・コントロール・パレットのシェルフコントロールタブにある  
キーボードアイコンを画面中央辺りにドラッグします。



画面が見やすいように、ドラッグしたキーボードアイコンを  
縮小しておきます。



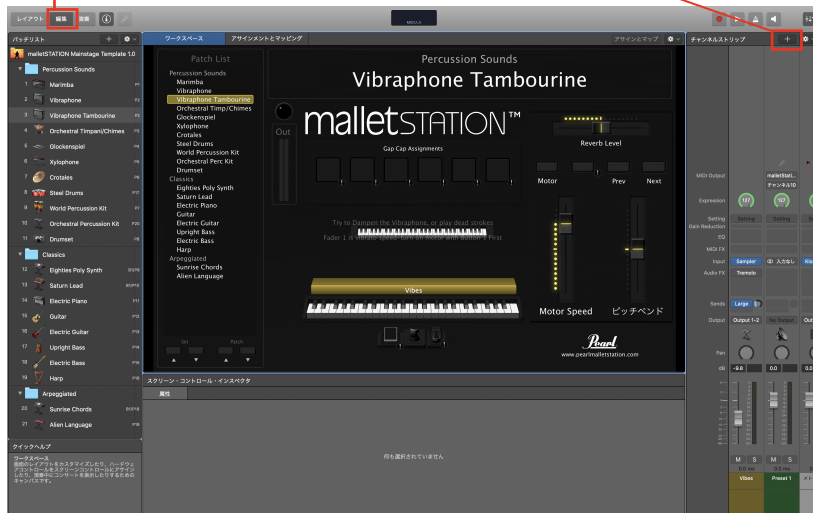
上のキーボードアイコンが選択されていることを確認して、左上の  
MIDI ポートは「malletSTATION」、チャンネルは「チャンネル9」に設定する。



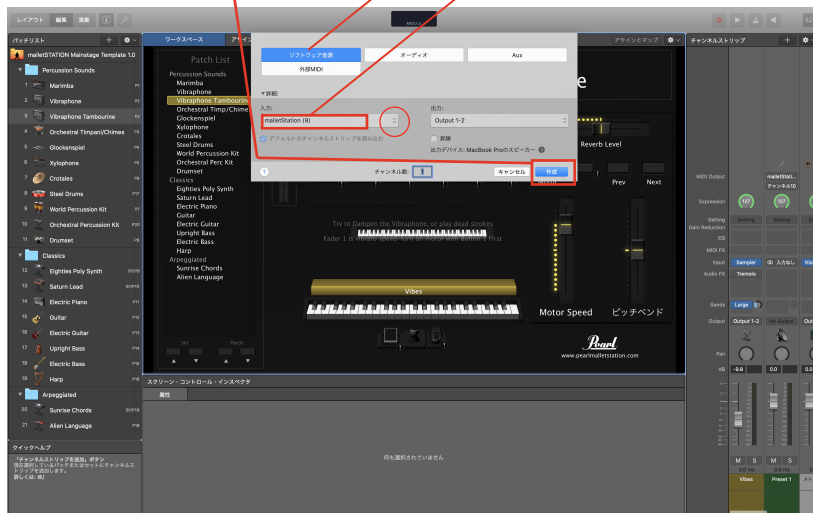
ギャップキャップ割り当て用のキーボードアイコンにソフトウェア音源を呼び出します。

「編集」モードに戻り、

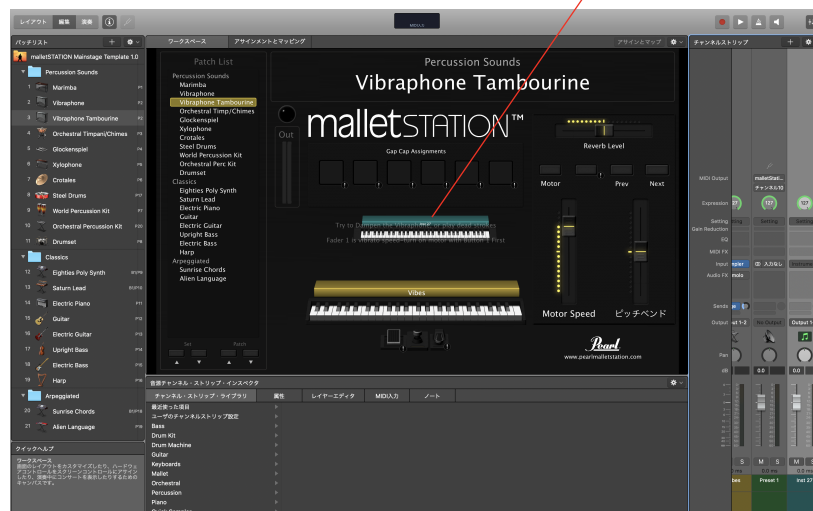
右上の「チャンネルストリップ」の「+」ボタンをクリック。



以下のウィンドウが現れるので、「ソフトウェア音源」を選択し、左下の「入力」(とカーソル)をクリックして「malletSTATION (9)」を選択した後、「作成」をクリック



上のキーボードアイコンに音源割り当て用の箱が出来て、色が変わります。(画像では緑)



ギャップキャップ割り当て用の上のキーボードアイコンの緑の部分をクリック。  
「音源チャンネル・ストリップ・インスペクタ」が表示され、



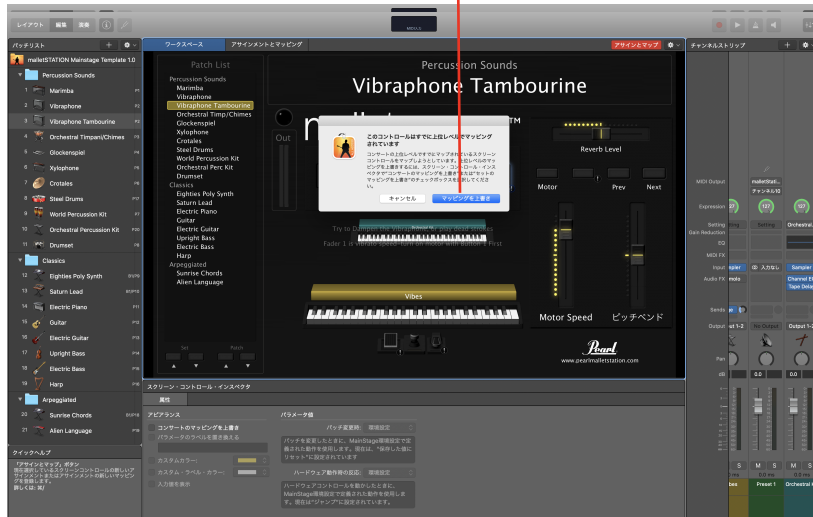
「チャンネル・ストリップ・ライブラリ」から、例えばタンバリンの音源、  
今回は「Orchestral」→「Percussion」→「Orchestral Kit (のノートナンバー  
F2とF#2にタンバリンの音が入っています)」を選択。



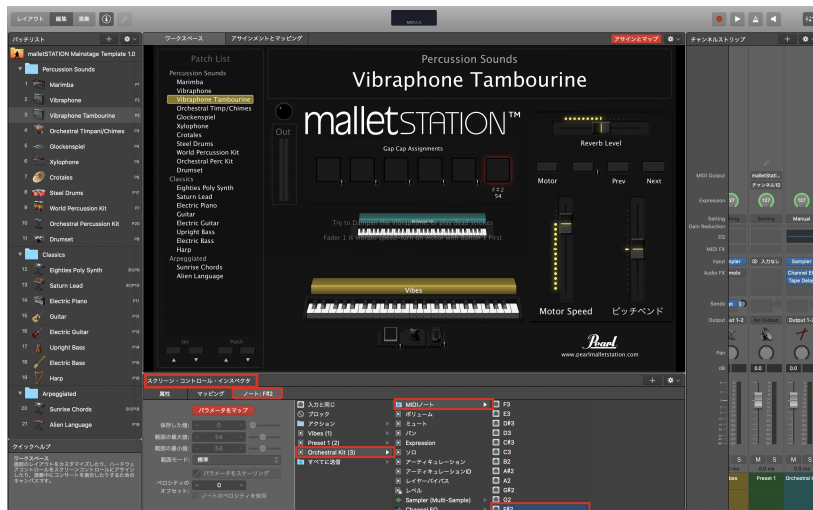
その後、「Gap Cap Assignments」の6個並んだボタンから、今回は例えば一番右の  
ボタンを選択した後、右上の「アサインとマップ」をクリック



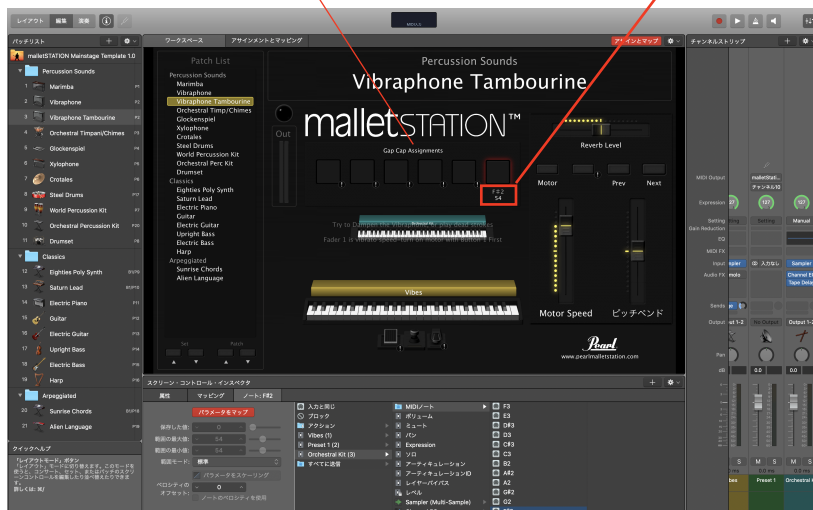
アラートが出るので「マッピングを上書き」をクリックし、次に、具体的な音（ノート）を決めます。



「スクリーン・コントロール・インスペクタ」の「マッピングなし（下の画像は設定後の表示：ノート F#2）」タブのところの「Orchestral Kit」→「MIDI ノート」→「具体的な音名（ノート）」の例えば「F#2」をクリック。



すると「Gap Cap Assignments」6個並んだボタンの一番右に「F#2 54」と表示されます。



この時点でそのボタンをクリックすると

「Orchestral」→「Percussion」→「Orchestral Kit の F#2」に割り当てられている、

「タンバリンのヘッド+ジングルのミックス音」が鳴ります。

「Orchestral」→「Percussion」→「Orchestral Kit」には、F2にタンバリンロール、F#2にヘッド+ジングルにタンバリンサウンドがあります。

またそのほか、タンバリン(ジングル中心)のサウンドが

「Percussion」→「Performance Patches」→「Tambourines Performance」に納められ

以下が実際に音が割り当てられているノートです。

C4、B3、A#3、A3、G#3、G3、F#3、F3、E3、D#3、D3、

C#3、C3、A#2、A2、G#2、G2、F#2、F2、D2、C#2、C2、

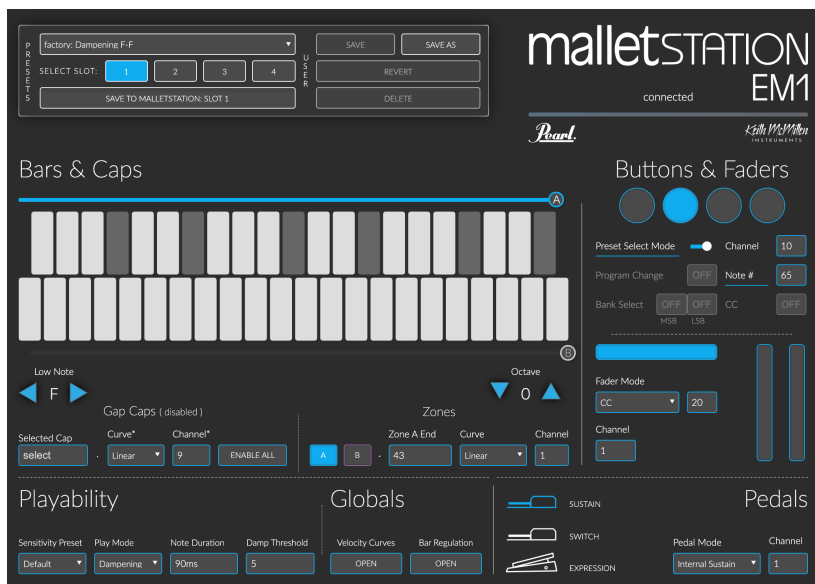
この状態で「アサインとマップ」ボタンをクリックして MainStage3 側の設定は完了です。

この状態で「保存」します。



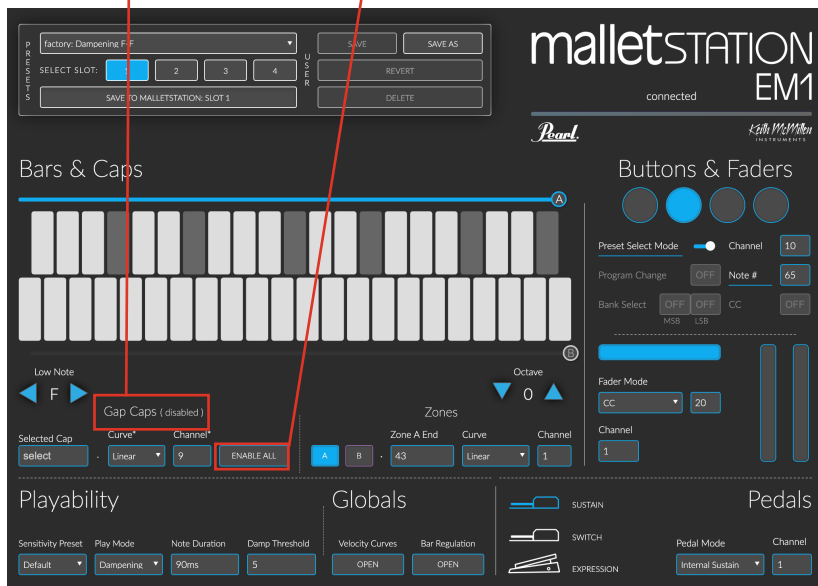
次に EM-1 を「malletSTATION Editor」  を使って、任意のギャップキャップを

弾いたときに、音が出る設定に変更します。



「malletSTATION Editor」がデフォルト（初期設定）の場合を仮定します。

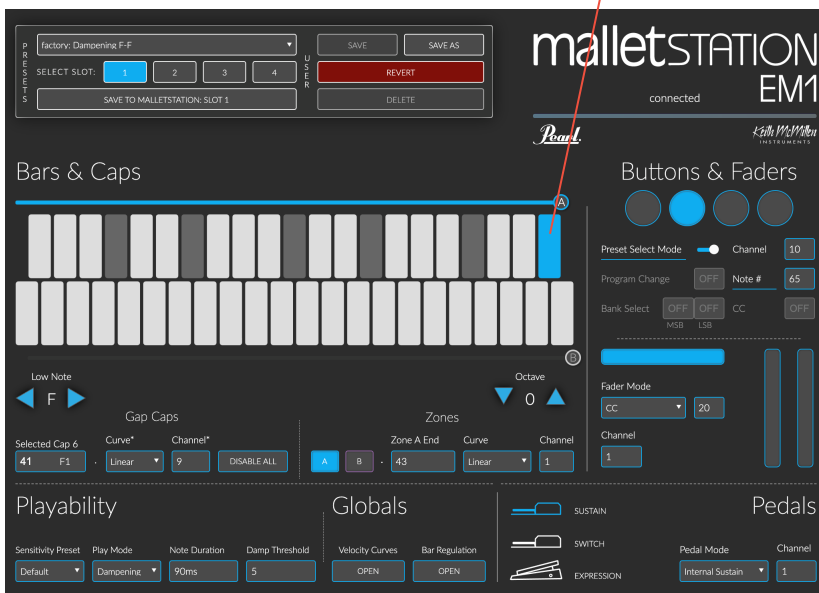
「Gap Caps(disabled)」の状態から→「ENABLE ALL」をクリック



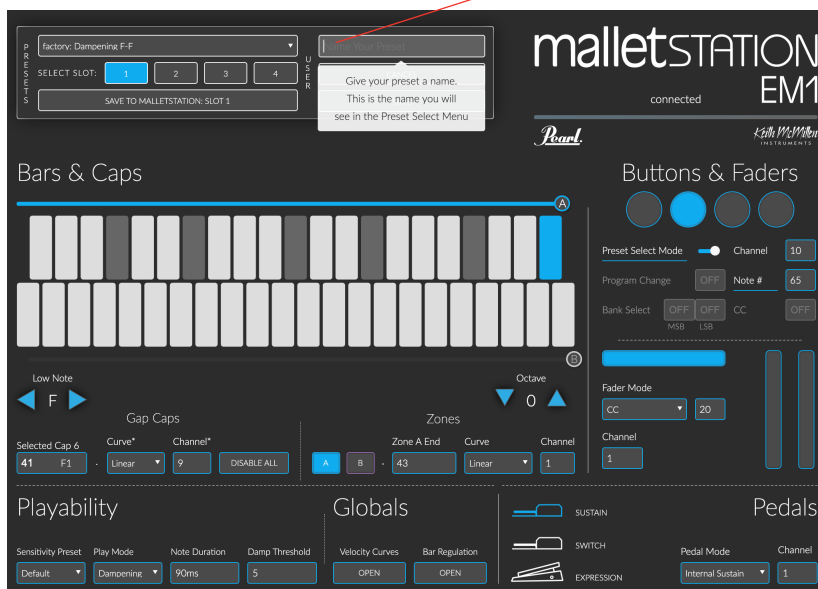
デフォルトの状態だと「Gap Cap」は MIDI チャンネルが「9」に設定されていますのでこの数値はそのまま進めます。

(これ以前に MainStage3 でタンバリンの音は MIDI チャンネル 9 に設定済みです)

ギャップキャップの一番右（高い）をクリックすると青色に反転します。



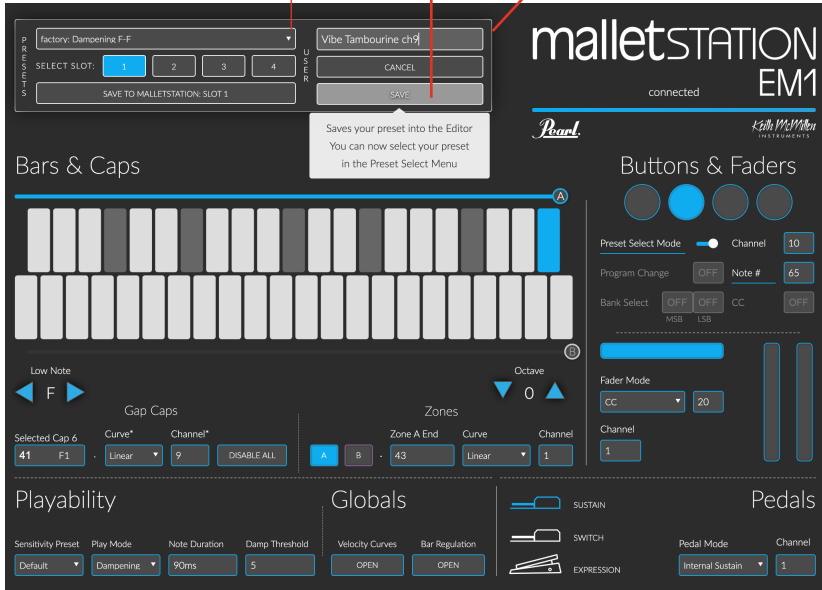
その状態でプリセット名を新しく設定します。



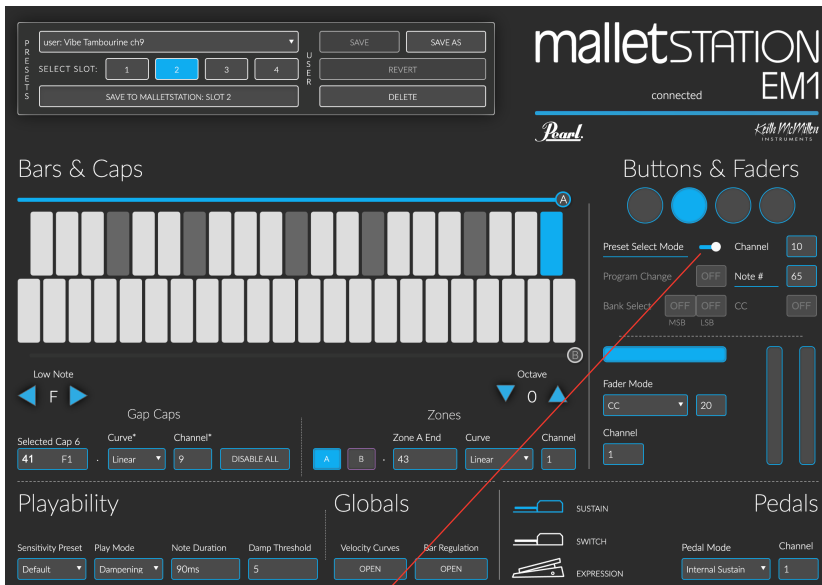
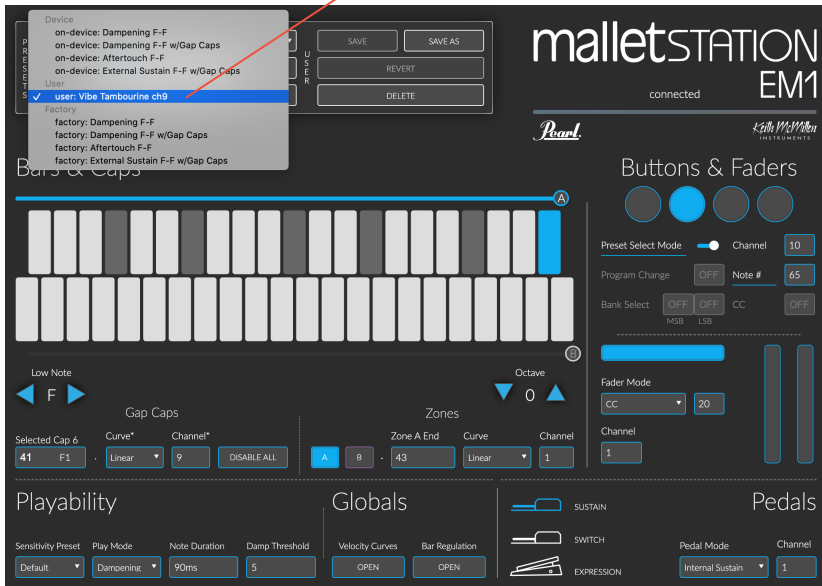
例えば「Vibe Tambourine ch9」と名前を付けます。  
そして「SAVE」をクリック

それから

PRESET ウィンドウの右上の▼をクリック



USER プリセットに「Vibe Tambourine ch9」が保存されています。

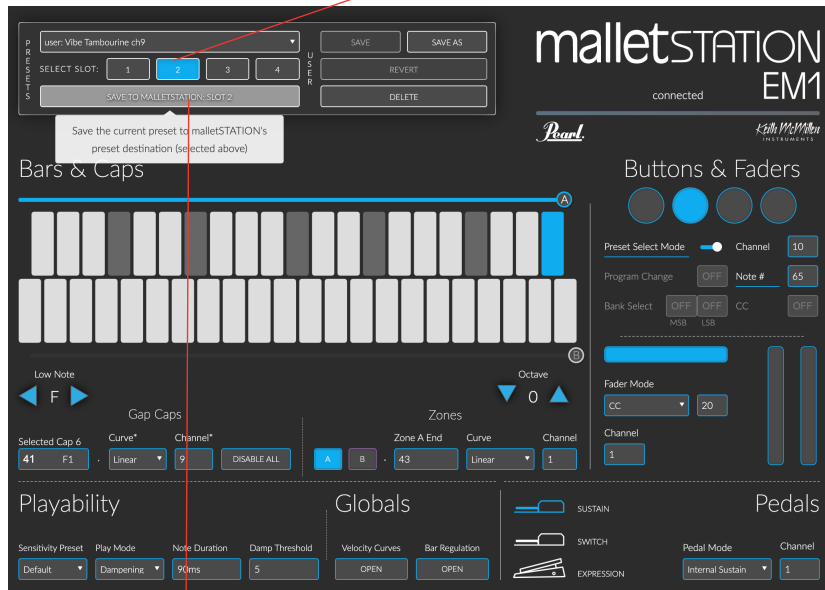


この状態で、

Preset Select Mode が ON( 青色 )になっていることを確認し、  
SLOT 2 ボタンを押すとこの「Vibe Tambourine ch9」が呼び出される設定にします。

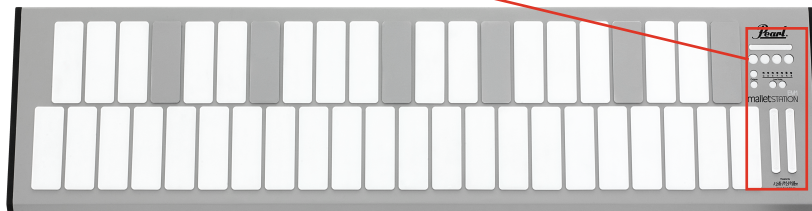


「Vibe Tambourine ch9」が表示された状態で、プリセットをアサインする場所を選びます。  
今回、SELECT SLOTの左から2つめ「2」をクリックしてこのプリセットをアサイン（割り当て）します。



その下の「SEND to MALLESTATION SLOT2」をクリックして、このプリセットを EM-1 本体に送信します。

EM-1 本体の LED が点滅してプリセットが本体に送られたことを確認します。



これで EM-1 本体の右側コントロールパネルの丸い4つのボタンのうち、左から2番目のところ (SLOT2) にプリセット「Vibe Tambourine ch9」が保存されていますので、



再び、MainStage3 のアプリで演奏モード（音色は先に設定した「Vibraphone Tambourine」で）の状態で EM-1 本体のコントロールパネルの丸いボタンのその左から2番目のところ (SLOT2) のボタンを押してプリセット「Vibe Tambourine ch9」を呼び出します。

以上で、当初の目標の「Vibraphone の音色に加えて、ギャップキャップ（一番右の）にタンバリンの音が割り当てられた状態」になりました。

#### 注意点

パッチがこの「Vibraphone Tambourine」から別のパッチ（例えば「Marimba」）に変更された際は、この Vibraphone に対してと同様に、音源側でギャップキャップ用のパッチを設定しておかないと、「Tambourine」などの別の音色はギャップキャップを弾いても音が出ませんので、ギャップキャップに様々な音色を割り当てて演奏したい場合は、お手数ですがパッチごとに必要な設定をその都度行ってください。